アイホン

福祉施設向け 導入事例

Vi-nurse（ビーナース） × 映像見守りシステム・スマートフォン



医療法人社団 永生会
介護老人保健施設 **マイウェイ四谷 様**

2005年10月開設。「住み慣れた地域で、質の高い、優しく、楽しく、快適な、リハビリ・マインドのある介護サービスを提供します」を理念に、入所者さんが自分らしい日常生活を送れるよう支援されています。

集合写真：左から 見前様、人見様、大塚様、川﨑様、伯様、谷川様

見守りカメラやスマートフォンなどのICT機器活用により業務負担の軽減と、安心安全な生活環境を実現

課 題

- 入所者さんの呼び出しを受ける端末にPHSを使用していたが、着信時に表示される呼び出しに関する情報量が少なく、効率的な対応ができなかった。
- 居室での転倒、転落事故やケアの実施状況などの報告は、文章での描写が難しいため、他職種やご家族様と情報共有しにくいことがあった。

ICT機器を活用し
介護業務の支援情報を取得

解 決

- スマートフォンは呼出種別の色表示、次コール、見守りカメラ連動時には映像も表示するので、呼び出し対応の優先順位を判断でき、業務効率化につながった。
- 見守りカメラの録画映像やスマートフォンのカメラを活用することで、状況報告などの情報共有がしやすくなり、適切な環境整備が可能になった。

導入先

医療法人社団 永生会
介護老人保健施設 マイウェイ四谷 様
所在地：東京都新宿区大京町1-3
定　員：入所100名（うちユニット型72名）／通所 33 名

導入システム

・Vi-nurse ビーナース
・スマートフォン　・映像見守りシステム
運用開始時期：2023年 3月

ご活用のポイント



映像見守りシステム
（見守りカメラ）

使いたいお部屋に持ち運んで使用



カメラは取り外しが可能で、観察が必要な方の居室に都度設置されています。

自動録画機能でADLの範囲を観察

録画映像は多職種で共有でき、入所者さんのリハビリや生活環境の整備等に役立てられています。

カメラ映像



スマートフォン連携

呼出種別が色で分かり対応の判断がスピーディに



橙色：ナースコール（見守りカメラ）
赤色：トイレ呼出

訪室前に入所者さんの状況を映像を使って確認

遠隔で訪室の必要性を判断されています。

映像見守りシステム（見守りカメラ）：Vi-nurse専用機器 / スマートフォン：施設内専用

福祉施設向け 導入事例

医療法人社団 永生会　介護老人保健施設　マイウェイ四谷 様

interview


副施設長 ／ 事務長
人見 様


サービス科 係長
見前 様


サービス科 主任
大塚 様

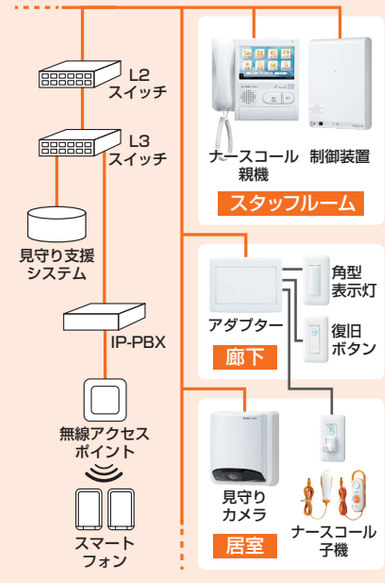

サービス科 副主任
伯 様


サービス科 副主任
川﨑 様


サービス支援課 主任
谷川 様


居室は全室個室。在宅や新しい生活に向けて、ADLに応じた個別リハビリテーションを提供されています。

［構成図］



Q スマートフォンを中心としたICT機器の導入を検討した理由は？

A 介護に関する情報を手元で確認できるようにすることで、呼び出し対応の負担軽減など、業務の効率化を図るためです。

谷川様：当施設では、リハビリ職を含む多職種が連携し、医療的視点と介護的視点を併せ持ちながら、入所者さんを支援しています。

見前様：以前使用していたナースコールが経年劣化の状況で、Vi-nurseの導入を検討する際に念頭に置いたのは、ナースコールとスマートフォン、見守りカメラなどのICT機器を連携させることでした。これにより、手元で情報を取得し、呼び出し対応などの介護業務の効率化を図ることを目指しました。

人見様：法人内の他施設では、ICT機器の導入による業務効率化のデータが既に取れており、その結果、法人内で ICT 機器の積極的な活用への意識が高まっていました。このことが、Vi-nurseの導入を進める際にプラスに働いたと感じています。

Q ICT機器の導入時や活用の際に抵抗感はありましたでしょうか？

A スマートフォンは私生活で使用しており、導入がスムーズ。見守りカメラの設置は、ご家族様から“安心”との声をいただいています。

伯様：業務にスマートフォンを導入する際、特に混乱はありませんでした。皆、プライベートでスマートフォンを使っていますし、パソコンよりも使いこなしやすいと感じました。

人見様：PHSの液晶画面は小さく、経年劣化で表示が薄くなり、文字が見づらかったです。一方で、スマートフォンは画面がクリアで大きいので、情報が読み取りやすくなりました。

また、スマートフォンのカメラ機能を用いた撮影や、見守りカメラの設置については、入所時にご家族様にご説明する重要事項説明書に記載することで、同意をいただいています。現時点で、ご家族様から同意を拒否されたことはありませんし、「設置した方が安心」という好意的なご意見をいただいています。

川﨑様：更なるICT機器の活用として、現在パソコンで入力している介護記録を、今後はスマートフォンからも入力できるようになると便利ですね。入所者さんから離れることなく、その場で介護記録を入力できるようになるので、業務の効率化が進むと思います。

人見様：スマートフォンを中心としたICT機器を更に活用することで、入所者さんから目を離さず、より入所者さんの傍にいる時間を取れるようになることは、介護業務に携わる私たちにとっての夢ですね。

Q 見守りカメラとスマートフォンを導入して、介護業務に変化は？

A カメラ映像の活用で他職種やご家族様と情報共有がしやすく、入所者様には快適で支援に適した環境を整備しやすくなりました。

大塚様：入所者さんからの呼び出しが重なった場合でも、スマートフォンならそれぞれが同時に表示されるため、優先順位を判断して対応できるようになりました。

伯様：呼出種別が色で分かるので、ひとめで対応を判断でき便利ですね。

大塚様：見守りカメラをお部屋に設置することで、呼び出しの着信と同時にカメラ映像が表示されます。センサーによる体動の検知時にも映像で確認できるため、不要な訪室を減らすことにつながります。業務の効率化でスタッフ間のコミュニケーションが増えると良いですね。

人見様：見守りカメラは、すべてのお部屋に取り付けパネルを設置し、必要に応じてカメラを持ち込んで使用しています。

見前様：特に状況確認が必要な入所者さんには、見守りカメラと、睡眠状態などを確認できる見守り支援システムを併用しています。入所者さんの中には、夜間など私たちが把握しているADLの範囲とは異なる動作をされる方もいます。見守りカメラの録画映像の活用で、入所者さんの動作を確認し、多職種間で具体的な情報共有ができ、事故の予測がしやすくなりました。また、当施設ではリハビリの一環として、ADLを考慮したお部屋の環境整備を行っています。録画映像を使った動作の把握は、快適でリハビリをより効果的にする生活環境の整備に役立ち、在宅復帰に向けた重要な取り組みとなっています。

大塚様：スマートフォンを使って、入所者さんの褥瘡の状態、食事の動作、歩行の様子などを撮影し、他職種だけでなく、ご家族様とも共有できるようになりました。事故が発生した際も、状況を撮影した写真を事故報告書に掲載することができます。

人見様：安全を優先すると安楽が阻害され、安楽を優先すると安全が犠牲になることがあります。Vi-nurseとICT機器の情報連携をさらに進めることで、安全と安楽のギャップを埋め、安心安全な施設でありたいと思います。

事例の内容および所属、役職等は取材当時のものです。／ 2024年７月　取材